

## 第2章 豊浦町の概況

### 第1節 自然的概況

#### 1. 位置と地勢

本町は、冷涼な北海道にあって比較的気候が温暖な北海道の中央南部胆振管内の西端で内浦湾(噴火湾)北部の海岸地域に位置しています。東西約17.0km、南北約16.5kmで、面積は233.54km<sup>2</sup>であり、総面積の約7割を山林原野が占めています。古くから漁業の町として発展し、噴火湾ホタテ養殖発祥の地として知られています。

本町の位置を図2-1-1に示します。



図 2-1-1 豊浦町の位置

## 2. 気象

本町の気候は、表 2-1-1 に示すとおり室蘭地方気象台大岸観測所の観測結果で代表され、太平洋西部気候区に属し、夏は最高気温極 32.6 、冬は最低気温極 -15.6 と気候的には比較的温暖です。

表 2-1-1 気象概況（平成 23 年）

月	気 温 ( °C )			風 速 ( m/s )	降 水 量 ( mm )
	最高	平均	最低	平均風速	
1	2.8	-5.3	-15.6	1.8	88.5
2	8.4	-2.5	-13.2	2.0	42.0
3	8.4 )	-1.1 )	-14.5 )	1.9 )	29.5 )
4	17.4	5.1	-5.4	2.0	105.5
5	20.1	9.3	-0.5	1.6	111.5
6	25.5	15.0	4.3	1.2	62.0
7	29.1	19.7	9.3	1.1	206.5
8	32.6	21.2	13.8	1.2	54.5
9	29.1	18.0 )	7.2	1.6	238.0
10	20.4	10.3	0.9	2.0	166.5
11	16.2	4.4	-5.3	1.9	51.0
12	6.5	-3.2	-15.4	1.6 )	124.5
年 間	32.6	7.6	-15.6	1.7	1,280.0

観測地点：胆振地方 大岸：アメダス

資料：気象庁気象統計情報

表示例：「 ) 」・・・準正常値

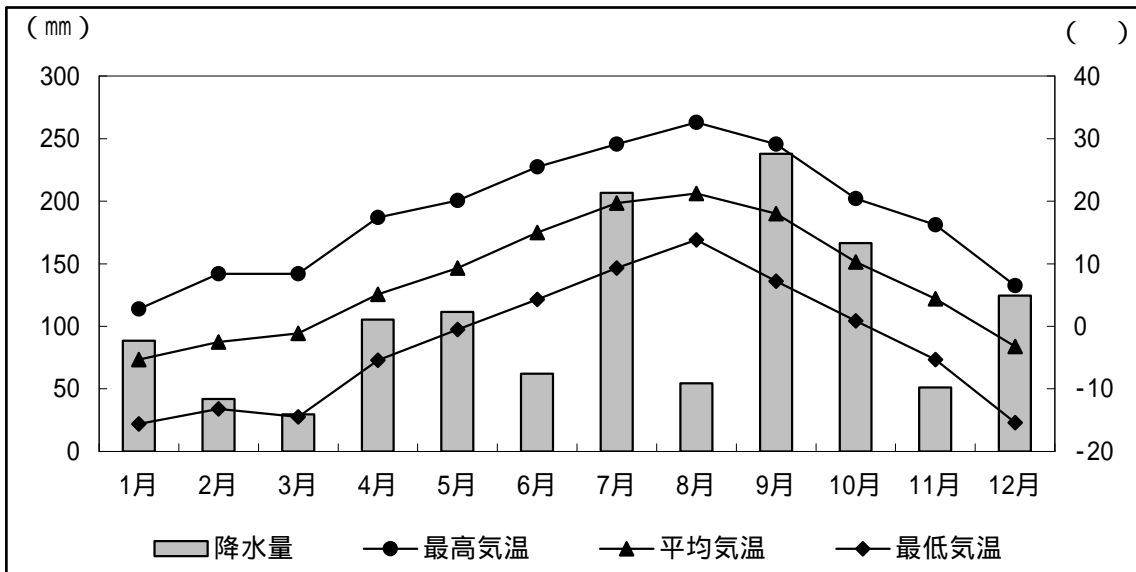


図 2-1-2 気温及び降水量の状況（平成 23 年）

### 3. 水象

本町を流れる河川は、2級河川のベンベ川、貫気別川、新山梨川、小銚岸川（おふけしがわ）、豊泉川、礼文華川と主な普通河川が14河川あります。

また、町の南側は内浦湾（噴火湾）に面しています。

表 2-1-2 本町の河川

種 類	河 川
二級河川	ベンベ川
	貫気別川
	新山梨川
	小銚岸川（おふけしがわ）
	豊泉川
	礼文華川
主な普通河川	オロエンヌキベツ川
	ボンベツ川
	上泉川
	ペタヌ川
	ボン別川
	壮滝別川
	壮滝別奥川
	ペタヌ川
	芝伏川
	昆布川
	新富川
	一の沢川
	峠川
	目名川

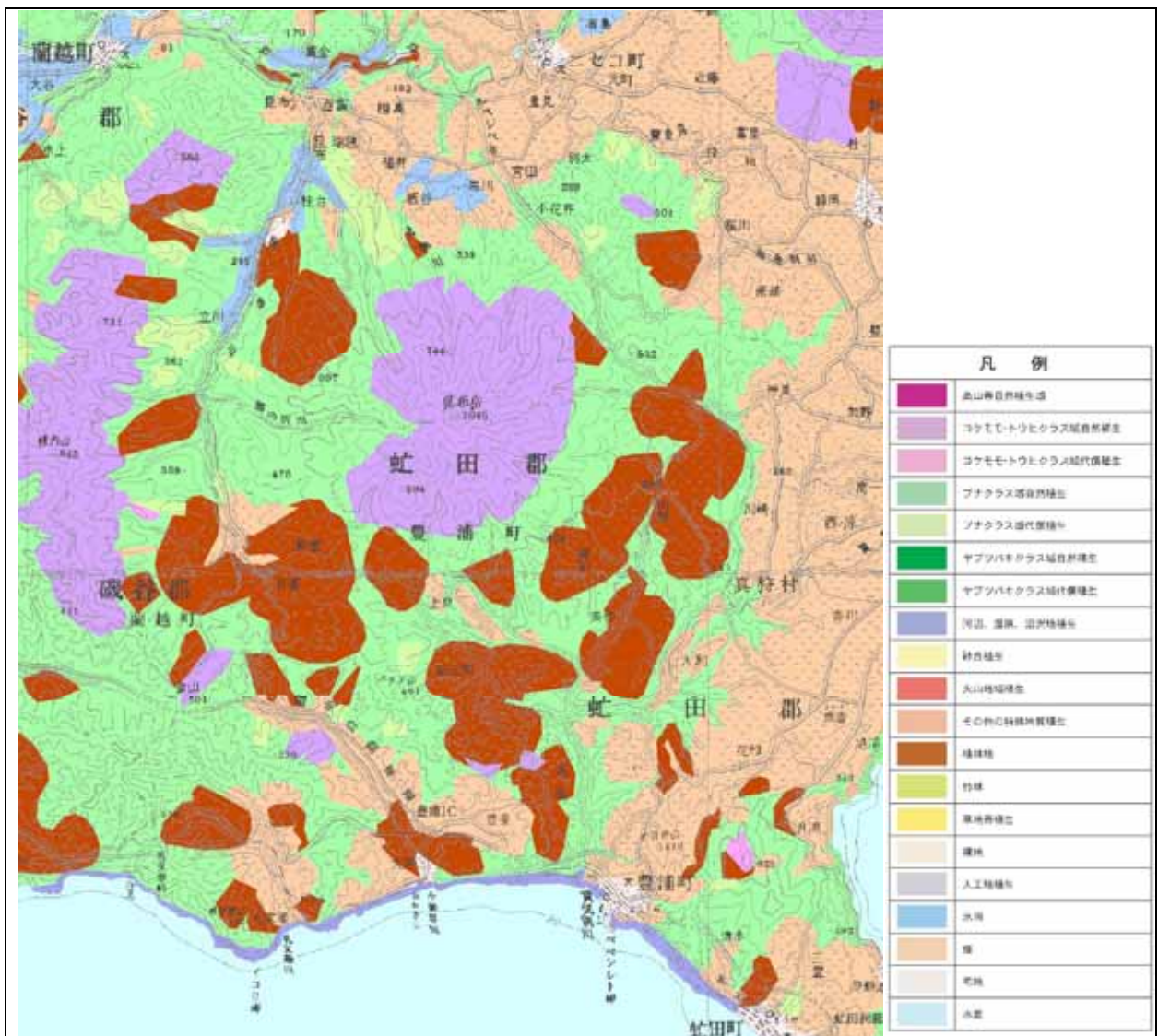
#### 4. 動植物

現況植生図を図 2-1-3 に示します。

本町に生息している動物はキツネやタヌキが確認されています。

本町の植生は、「ブナクラス域自然植生」とその中に点在している「植林地」となっています。また、ニセコ町との町界に「コケモモ-トウヒクラス域自然植生」が広がっています。

また、北海道自然環境保全地域として静狩礼文華(しずかりれぶんげ)が豊浦町と長万部町にまたがっています。



資料：国土交通省 土地・水資源局データ

図 2-1-3 現況植生図

## 第2節 人口動態・分布

### 1. 人口及び世帯数

本町の人口及び世帯数の推移は、表 2-2-1、図 2-2-1 に示すとおりです。

人口は、年々減少にあり、町全体を過去 10 年間でみると 787 人の減少となっています。また、世帯数は過去 10 年間で 178 世帯減少しています。1 世帯当たりの人口でみると 2.12(人/世帯)から 1.94(人/世帯)に減少しています。

表 2-2-1 人口及び世帯数の推移

年 度	人 口 ( 人 )		世 帯 ( 戸 )		1世帯当たりの人口 (人/戸)
	合 計	対前年度増加数	合 計	対前年度増加数	
H14	5,182		2,446		2.12
H15	5,040	-142	2,390	-56	2.11
H16	4,911	-129	2,344	-46	2.10
H17	4,784	-127	2,300	-44	2.08
H18	4,707	-77	2,303	3	2.04
H19	4,578	-129	2,264	-39	2.02
H20	4,622	44	2,343	79	1.97
H21	4,492	-130	2,298	-45	1.95
H22	4,424	-68	2,261	-37	1.96
H23	4,395	-29	2,268	7	1.94

注：年度末人口、世帯数

資料：人口と世帯調べ

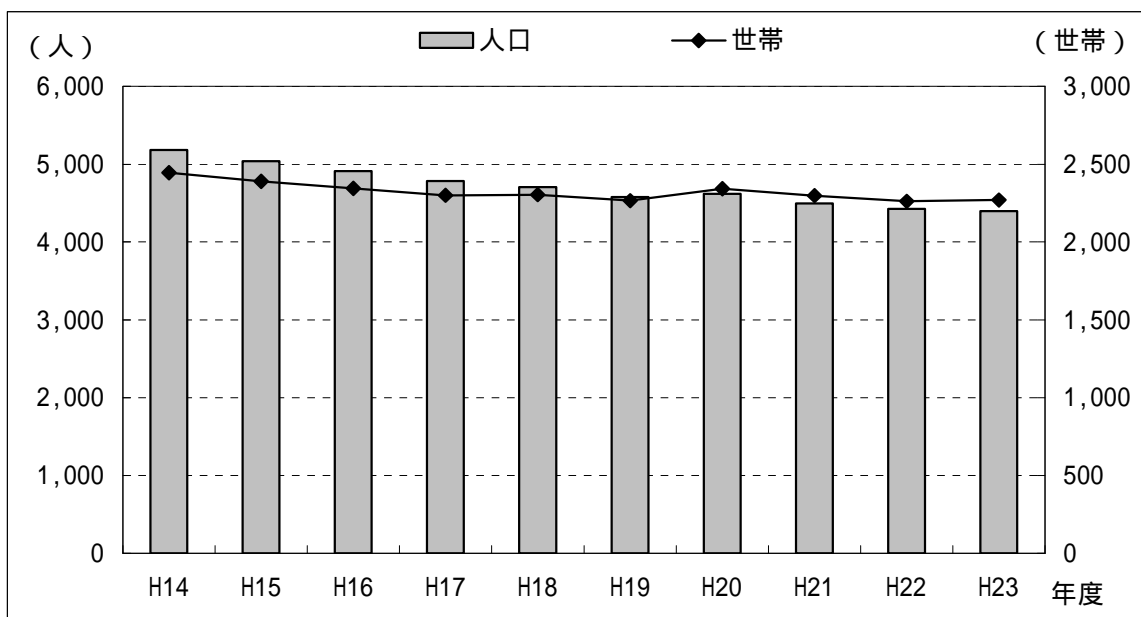


図 2-2-1 人口及び世帯数の推移

## 2. 人口動態

人口動態は、自然動態及び社会動態とも減少傾向となっています。

表 2-2-2 人口動態の推移

年度	区分	自然動態			社会動態			その他の移動	増減
		出生	死亡	増減	転入	転出	増減		
H17		28	78	50	276	307	31	2	79
H18		32	73	41	282	353	71	2	110
H19		21	80	59	235	291	56	2	117
H20		25	70	45	382	321	61	1	17
H21		22	76	54	186	263	77	1	130
H22		22	70	48	227	244	17	3	68
H23		26	76	50	247	227	20	1	29

資料：住民基本台帳

### 第3節 市街地・集落等の状況

本町は、市街化区域、市街化調整区域の区域区分は定められていません。

また、集落等は、豊浦駅、大岸駅、礼文駅を中心に沿岸に住宅等が広がっています。

#### 第4節 産業の動向

本町の産業別従業者数の推移を表2-4-1、図2-4-1に示します。

本町の産業別従業者数は、第3次産業が47.6%と最も多く、次いで第1次産業の26.5%となっています。

表2-4-1 産業別従業者数の推移

項目	年度	H12	H17	H22
第一次産業	A 農業，林業	-	-	309
	農業	357	313	283
	林業	20	15	26
	B 漁業	268	232	227
第二次産業	C 鉱業，採石業，砂利採取業	12	0	0
	D 建設業	373	258	196
	E 製造業	122	121	77
第三次産業	F 電気・ガス・熱供給・水道業	9	9	3
	G 情報通信業	91	0	7
	H 運輸業，郵便業		46	50
	I 卸売業，小売業	317	227	186
	J 金融業，保険業	22	14	9
	K 不動産業，物品賃貸業	3	6	4
	サービス業	714	-	-
	L 学術研究，専門・技術サービス業		-	9
	M 宿泊業，飲食サービス業		270	254
	N 生活関連サービス業，娯楽業		-	71
	O 教育，学習支援業		83	74
	P 医療，福祉		305	313
	Q 複合サービス事業		52	46
	R サービス業（他に分類されないもの）		195	104
S 公務（他に分類されるものを除く）	121	102	107	
T 分類不能の産業	1	2	1	

注)

1. 日本標準産業分類第11回改定（平成14年3月）より

「サービス業」が「飲食店，宿泊業」「教育，学習支援業」「医療，福祉」「複合サービス事業」「サービス業（他に分類されないもの）」に分類されています。

2. 日本標準産業分類第12回改定（平成19年11月）より

「農業」「林業」が「農業，林業」に統合されています。

「サービス業（他に分類されないもの）」から「学術研究，専門・技術サービス業」「生活関連サービス業，娯楽業」が分類されています。

資料：国勢調査

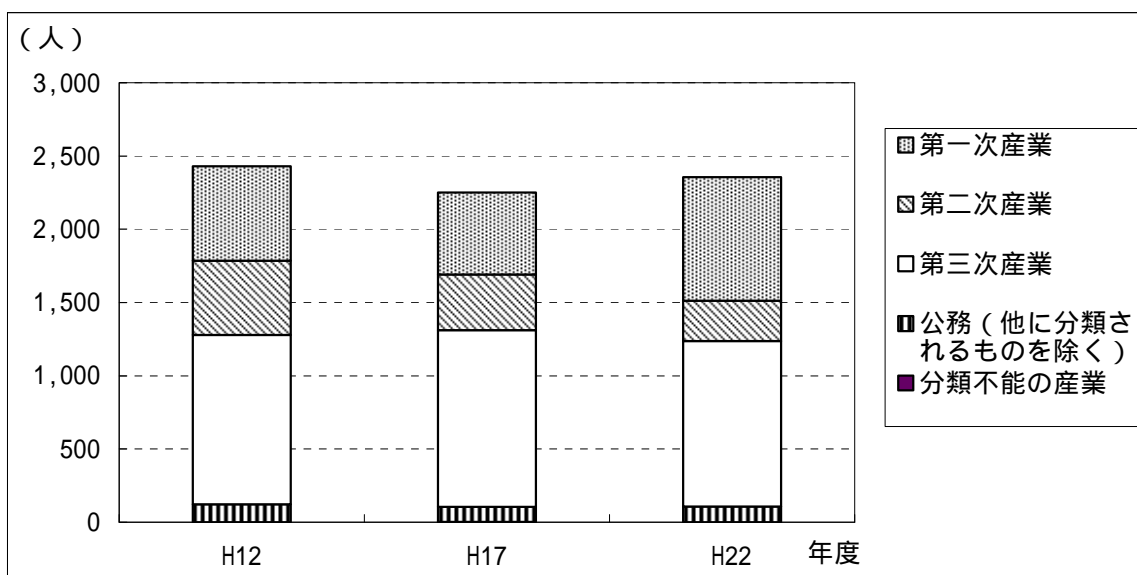


図 2-4-1 産業別従業者数の推移

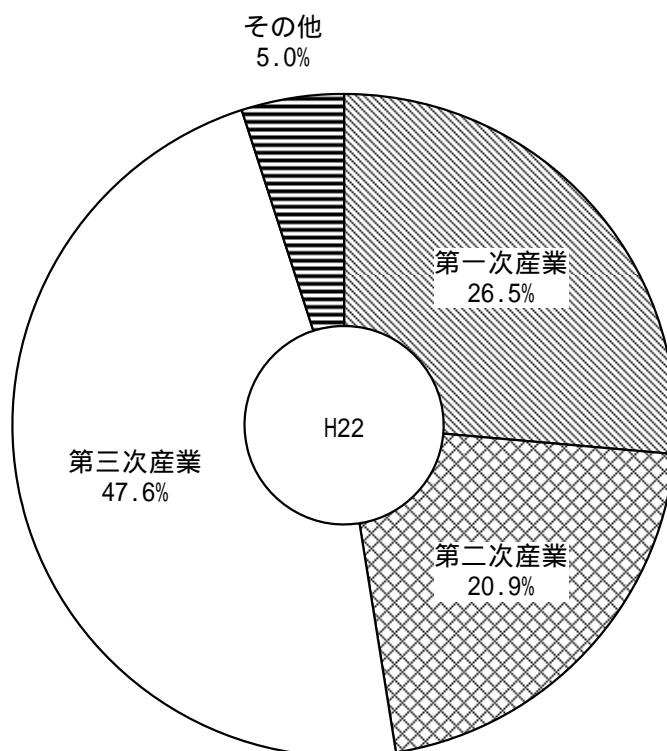


図 2-4-2 産業別従業者数の割合 (平成 22 年度)



## 第5節 交通

本町の鉄道は JR 室蘭本線が町の南を走り、豊浦駅、大岸駅、礼文駅及び長万部町との町境に小幌駅があります。また、その他の公的輸送機関として、道南バス、町営バス、循環福祉バスが運行されています。

主要道路は、国道 37 号線、北海道縦貫自動車道が通っています。

## 第6節 土地利用状況

本町の土地利用の状況を表 2-6-1、図 2-6-1 に示します。

本町は全体の約 60% が山林となっており、次いで原野が 12.5%、畑が 7.7% であり、宅地は 0.8% と低い割合となっています。

表 2-6-1 土地利用状況（平成 19 年）

(単位：km<sup>2</sup>)

地目	田	畑	宅地	池沼	山林	牧場	原野	雑種地	その他	計
面積	2.33	18.01	1.88	0	141.86	10.74	29.13	1.71	27.88	233.54
	1.0%	7.7%	0.8%	0.0%	60.7%	4.6%	12.5%	0.7%	11.9%	100.0%

資料：各年1月1日現在「固定資産の価格等の概要調書」（企画振興部地域行政局市町村課）

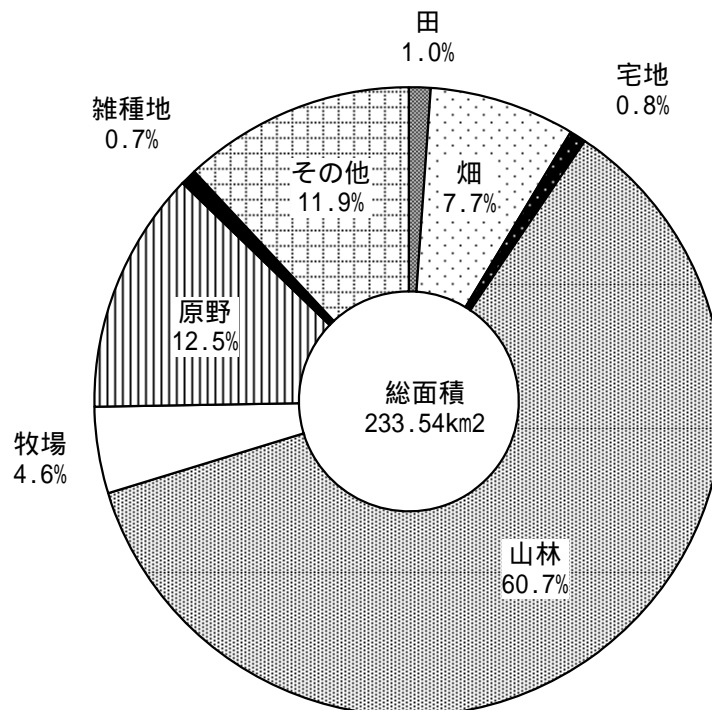


図 2-6-1 土地利用状況（平成 19 年）

## 第7節 環境特性

### 1. 大気質

本町の大気質状況を表 2-7-1 に示します。また、本町には浮遊粒子状物質及び一酸化炭素の常時監視局がないため、近辺の伊達市館山及び汐見地区測定局の測定状況を示します。

表 2-7-1 大気質の状況（平成 21 年 国立環境研究所）

#### 二酸化硫黄

測定地点	年平均値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	有効測定 日数 (日)	測定時間 (時間)	環境基準値
豊浦小学校	0.003	0.015	0.006	365	8730	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ、1時間値が0.1ppm以下であること。
桜小学校跡	0.003	0.012	0.005	362	8686	

#### 二酸化窒素

測定地点	年平均値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	日平均値 の年間 98%値 (ppm)	有効測定 日数 (日)	測定時間 (時間)	環境基準値
豊浦小学校	0.006	0.052	0.016	365	8724	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下であること。

#### 浮遊粒子状物質

測定地点	年平均値 (mg/m <sup>3</sup> )	1時間値の 最高値 (mg/m <sup>3</sup> )	日平均値 の2% 除外値 (mg/m <sup>3</sup> )	有効測定 日数 (日)	測定時間 (時間)	環境基準値
伊達市館山	0.012	0.179	0.035	359	8637	1時間値の1日平均値が0.10mg/m <sup>3</sup> 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m <sup>3</sup> 以下であること。

一酸化炭素

測定地点	年平均値 (ppm)	1時間値の 最高値 (ppm)	日平均値 の2% 除外値 (ppm)	有効測定 日数 (日)	測定時間 (時間)	環境基準値
汐見地区 測定局	0.3	2.9	0.7	363	8649	1時間値の1日平均値 が10ppm以下であ り、かつ、1時間値 の8時間平均値が 20ppm以下であるこ と。

資料：2009年（国立環境研究所）

2. 水質

本町の水質の状況を表 2-7-2 に示します。また、本町内には海域の COD の環境基準点がないため近辺の伊達海域の水質状況を示します。

貫気別川の BOD は環境基準を満足しています。

伊達海域については(1)及び(2)は環境基準を満足していますが、(3)は環境基準を超えています。

表 2-7-2 水質の状況（平成 22 年）

BOD

水 域 名	類 型	基準値 ( mg/L )	75% 値の 最大値 ( mg/L )	環境基準値 達成の判定	平均値 ( mg/L )
貫気別川下流	B	3	0.7		1.2
貫気別川上流	AA	1	<0.5		<0.5
貫気別川中流	A	2	0.7		1.4

COD

水 域 名	類 型	基準値 ( mg/L )	75% 値の 最大値 ( mg/L )	環境基準値 達成の判定	平均値 ( mg/L )
伊達海域(1)	B	3	2.4		2.1
伊達海域(2)	B	3	2.2		2.1
伊達海域(3)	A	2	2.3	×	1.9

資料：環境省

## 第8節 将来計画

本町では、平成20年度に「第5次豊浦町総合計画（平成20年度～平成29年度）」を策定しています。その概要を以下に示します。

### 1. 目標

町の資源を発掘し「自立する元気な豊浦町」の実現を目指します。

### 2. 廃棄物や副産物の適正な処理・有効利用などによる農村環境の保全

- ・家畜ふん尿の適正な管理・利用と必要な施設の整備
- ・農業生産活動にともなう農薬や肥料などの環境負荷軽減対策の強化
- ・バイオマスの効率的な利活用を図るためのシステムの構築
- ・間伐材の活用による木質ペレットの製造など他産業と連携した資源の有効活用の推進
- ・農業用廃プラスチックのリサイクルの推進

### 3. 三つの挑戦プロジェクト

多様な連携や協働による「豊浦町の自立」に向ける三つの挑戦プロジェクトを進めます。

挑戦プロジェクト1：町に人が集まる交流事業の振興

挑戦プロジェクト2：環境にやさしい産業の振興

挑戦プロジェクト3：山を守り海を育てる植林活動